

大山登山

登って下りて楽しんで……

登山隊長 杉本 増生



宿直明けの職員からおむすびをもらい、車で駅まで送ってもらって、登山プログラムの開幕です。山ふもとまで、まずは九時間半の電車旅一乗継に失敗してはワイワイと反省し、途中下車の城崎温泉駅では足湯につかり、旅のお姉さんたちと記念撮影に興じ、車内で開いたカニチラシ弁当に舌鼓を打ち、松原隊員の取り出す果物やお菓子をぱくつき、他の乗客たちが下車して貸し切り状態となった車内をわがもの顔に行き来しては、カメラをパチパチ……日帰り移動支援では体験できない電車の楽しみです。

二日目はいよいよ、大山登山。宿舎から1709mの山頂まで、4時間半、登りの連続です。雨の中、合羽を着て、一步一步せり上がっていく。誰も代わってやれない。自分の足で登るよりほかはない。去年も参加したゲストさんたちは、わきまえていて、黙々と登っていく。「う～む、たくましいもんやなあ……」と、登山隊長としては感動する場面です。

山頂の山小屋では、コンロで湯を沸かし、板の間には、松原隊員が五人分のお菓子や飲物をせっせと並べ、「さ、いろいろな種類があるよ。どれがおいしいかな～」ジャンケンポン、アイコデショ……ゲストさんたちと腕を競って(菓子取り合戦)ーこのあたりが、登山プログラムの楽しいところかな。

ところで、かわいそうなことに、初参加の牧野隊員は、耐用年数切れの雨具をあてがわれ、シャツもズボンもびしょびしょ。それでも、全員の食料やコンロや鍋を一人で背負って、大活躍です。「牧野隊員、ごめんね。来年は新品の雨具を用意するから……」と(自立センター前穂)代表の松原隊員は反省しきり。

下山し、入浴したあとは、乾杯して豪華な夕食、ワイワイガヤガヤ……一番にぎやかな食事客なのに、従業員さんたちは、男も女も皆愛想よく、ちょっとした言動にも心がこもっていて、登頂の余韻のうちにくつろいで食事することができました。「ゴチソウサマデシタア……」ゲストさんの大声にも、皆さんにっこり会釈です。

満腹して部屋に戻り、ゲストさんたちと自宅への絵はがき書き。宛名書きを手伝ったあと、荷物の整理にかかる。「〇〇さん、自分のザックは自分でちゃんとまとめるねんで。」隊長たる杉本はちょっぴりこわい顔をしてみせて、格好をつける。

翌朝、玄関で、支配人はじめ皆さんの心のこもった笑顔に見送られ、出発。「三日間、ずっと一緒に生活して、ゲストさんたちのことが、より一層わかって、愛着がふかまりました。」

満足そうなゲストさんたちを眺めながらの、牧野隊員の呟きでした。

前穂通信

まえほつうしん

発行日

2011年9月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



■8月下旬に、二泊三日の行程で大山登山活動をさせていただきました。

ご要望を頂いたゲストは男性お二人の方。※

ガイドヘルパーは杉本パートナーと牧野祐典スタッフ、松原史弦スタッフです。

■宿泊を伴う移動支援活動のため、事前に障害福祉課に計画書も提出し、了解を頂いております。

■今後も、ご要望がありましたらハイキングから、こうした本格登山まで取り組んで参りたいと存じます。

※通年に渡り、登山訓練をして頂いております。また、個人装備も高山に耐えうる物を揃えて頂いております。